

## 入園おめでとう



## 小谷っ子たち!!

平成30年度予算を可決……………②～③

村長提出議案・請願・陳情の審査・議員発議など……………④～⑥

国会要望・総務・経済委員会活動報告……………⑦

村政を問う・一般質問……………⑧～⑱

わたしのひとこと(相澤 恭介さん・井上 聡也さん)……………⑱

# て暮らせる村づくりに!!

## ピックアップ



### 総務課

● 深原一時避難所建設工事	3,500万円
★ 村制60周年記念事業	2,613万円
★ 同窓会開催補助金、2回目成人式	104万円
★ 村内観光再開事業	3,000万円
★ 地域語り合い・地域づくり事業補助金	810万円
★ ふるさと応援寄付金事業	10億5,969万円

### 住民福祉課

● ごみ処理広域化推進負担金	9,864万円
● 産後ケア事業	56万円

### 観光振興課（観光商工係）

★ 柵池自然園楠川トイレ建築工事	8,572万円
★ 柵池自然園木道改良整備	3,000万円
★ 柵池地域構想委託	700万円
★ 鎌池遊歩道整備	500万円

### 観光振興課（農林係）

● 全国棚田サミット開催負担金	1,620万円
★ 白馬乗鞍ちゃんめろ改修工事	6,120万円
★ 雨飾高原露天風呂トイレ改修工事	1,700万円
★ 基盤整備0.1m <sup>3</sup> 級バックホー購入	350万円

### 特産推進室

● おたり54プロジェクト複合施設建設調査等	6,365万円
● 加工貯蔵施設整備（商品開発等）	1,246万円
★ 貯蔵施設整備（古美里調査委託）	600万円
★ 移住促進事業	1,873万円

## れる？

し、村は株主となる。  
て3,000万円を計上。

育、集客等を行っている企業に委託。役  
るのではなく、総合的に実施するための委託。

に村営住宅の建設が必要。柵池村営住宅  
降、必要に応じて他の地域にも建設を考える。

だったり、不安を感じているものの、施設に  
まいの形として、29年度実証実験を行った。  
上。

# 平成30年度 予算を可決

(賛成多数で可決)

# 元気で安心し

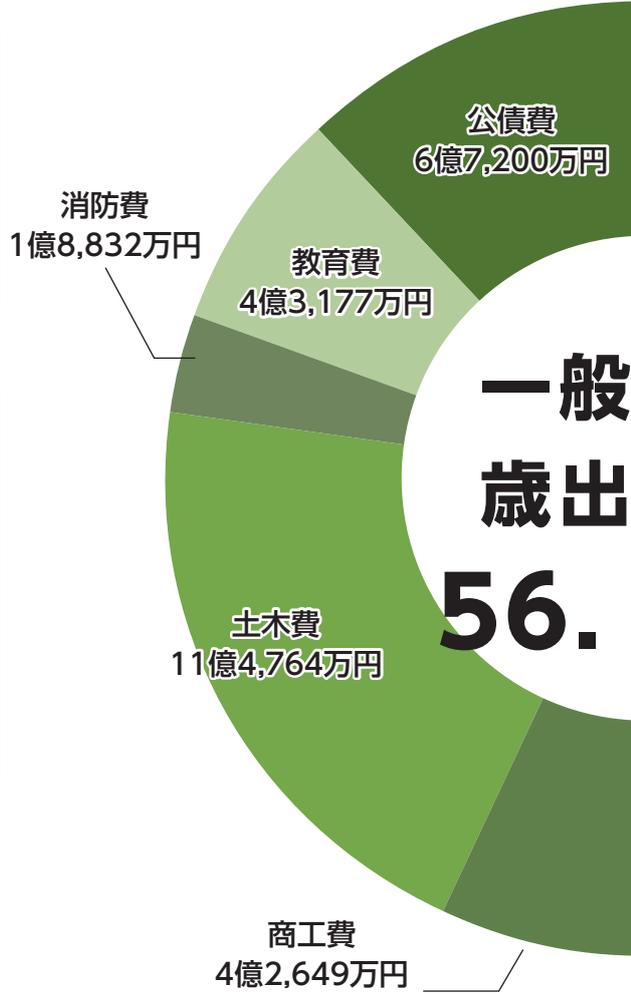
## 新規・拡充予算

### 建設水道課

- 16 t級除雪タイヤドーザー購入 4,996万円
- 平倉トンネル改良工事 7,500万円
- ★ 村道舗装・改良工事 (8ヶ所) 1億7,218万円
- ★ 村営住宅建設工事 3億6,100万円

### 教育委員会

- ★ 高等学校等子育て応援助成金 219万円
- ★ 中学校屋根葺き替え工事 2,570万円
- ★ 郷土館茅葺屋根葺き替え工事 2,862万円
- ★ 白馬高校支援事業 3,354万円
- ★ 小学校教育用パソコン購入 2,439万円
- ★ 中学生海外交流事業 (台湾・中国) 613万円



## 特別会計予算 7億8,290万円

(全員賛成で可決)

区分	30年度当初予算額
国民健康保険特別会計	3億6,000万円
国民健康保険診療施設特別会計	1億円
簡易水道事業特別会計	9,660万円
公共下水道事業特別会計	1億170万円
農業集落排水事業特別会計	8,570万円
後期高齢者医療特別会計	3,890万円

### 予算特別委員会 予算はどう使わ

- ・ 古民家利用 観光再開発事業  
資産保有会社、資産運営会社を設立  
30年度は、資産保有会社設立準備とし
- ・ 村全体の総合プロデュース委託  
地域の総合的なプロデュースや人材教場の各課が縦割りで事業を計画・実施す
- ・ 村営住宅建設事業  
村民や居住希望者から要望があり、早急上部の村有地に建設を計画する。次年度以
- ・ トレーラーハウスの購入  
さまざまな事情で自宅での生活が困難は入れない高齢者に、見守り付の新たな住30年度、購入費用として800万円を予算計

※ ★印のついている事業は、ふるさと応援寄付金を財源とした事業です。

## 12月臨時議会

件名	内容	可決
売買契約の締結について	(クローラー型トラクター1台の購入) 金額 717万5,520円 株式会社関東甲信クボタ	全員賛成
売買契約の締結について	(汎用コンバイン1台の購入) 金額 723万6,000円 大北農業協同組合	全員賛成
工事変更請負契約の締結について	林道黒川線1号箇所災害復旧工事 1,115万6,400円増額 相手：(株)國広建設	全員賛成

## 1月臨時議会

件名	内容	可決
平成29年度小谷村一般会計補正予算(第10号)	歳入歳出それぞれ3億円追加 総額73億5,500万円 ふるさと応援寄付金増	全員賛成

## 3月定例会 村長提出議案 ◇可決した議案

件名	内容	可決
平成29年度小谷村一般会計補正予算(第11号)	歳入歳出それぞれ6,700万円減額 総額72億8,800万円	全員賛成
平成29年度小谷村国民健康保険特別会計補正予算(第4号)	歳入歳出それぞれ1,900万円追加 総額4億8,780万円	全員賛成
平成29年度小谷村簡易水道事業特別会計補正予算(第5号)	歳入歳出それぞれ40万円追加 総額9,560万円	全員賛成
小谷村畜産共済条例の制定について	事故により野豚が死亡した場合の共済制度の構築	全員賛成
小谷村畜産振興基金運用条例の全部を改正する条例について	全部改正。名称「小谷村畜産振興基金条例」とする	全員賛成
小谷村観光施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	千国の庄史料館の入館料、小・中学生を無料とする	全員賛成
小谷村牛方宿設置条例の一部を改正する条例について	牛方宿入館料、小・中学生を無料とする	全員賛成
小谷村郷土館設置条例の一部を改正する条例について	郷土館入館料、小・中学生を無料とする	全員賛成
小谷村消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について	消防法の改正による一部改正	全員賛成
小谷村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について	非常勤職員の育児休業を上限2歳までとする改正	全員賛成
小谷村個人情報保護条例の一部を改正する条例について	「個人識別符号」、「要配慮個人情報」について明確化	全員賛成
小谷村廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例について	「白馬山麓環境施設組合」を「白馬山麓事務組合」に改正	全員賛成
長野県町村公平委員会共同設置規約の変更について	「白馬山麓環境施設組合」を「白馬山麓事務組合」に改正	全員賛成

3月定例会 村長提出議案 ◇可決した議案

件名	内容	可決
大町市及び小谷村における北アルプス連携自立圏形成に係る連携協約の一部を変更する協約の締結の協議について	「認知症初期集中支援チーム」、就学前児童に対する「眼科屈折検査」を連携事業に追加する	全員賛成
雨飾高原キャンプ場外1施設の指定管理者の指定期間の変更について	指定管理者 株式会社 おたり振興公社 指定期間を平成30年3月31日までに変更	全員賛成
雨飾高原キャンプ場の指定管理者の指定について	指定管理者 株式会社 おたり振興公社 指定期間 平成33年3月31日まで	全員賛成
鎌池地域産物販売施設の指定管理者の指定について	指定管理者 株式会社 山田旅館 指定期間 平成33年3月31日まで	全員賛成
おたり名産館の指定管理者の指定について	指定管理者 小谷かあちゃんの会 代表 野口禮子 指定期間 平成33年3月31日まで	賛成多数
小谷村石坂探検村施設の指定管理者の指定について	指定管理者 おたり自然学校 代表 大日方冬樹 指定期間 平成33年3月31日まで	全員賛成
小谷村森林体験交流施設の指定管理者の指定について	指定管理者 深山遊園北野の郷 会長 小林規朗 指定期間 平成33年3月31日まで	全員賛成
特産品開発センター外1施設の指定管理者の指定について	指定管理者 大北農業協同組合 指定期間 平成33年3月31日まで	全員賛成
小谷村営社会体育館の指定管理者の指定について	指定管理者 梅池地区会 会長 太田直幸 指定期間 平成33年3月31日まで	全員賛成
池の田グリーンスポーツの指定管理者の指定について	指定管理者 池の田林野組合 組合長 花岡克栄 指定期間 平成33年3月31日まで	全員賛成
字の区域変更について	区画整理により白馬乗鞍及び元廻地区の字の区域を変更	全員賛成
農業委員会委員の任命について	深澤 勉氏(梅池南) 栗田 優氏(千国) 宮嶋 信氏(立屋) 中川 透氏(番場) 清水 秀雄氏(下里瀬) 小林 康男氏(石坂) 鷺澤 啓二氏(曾田) 太田 稔夫氏(中谷西) 見田 勇治氏(三ヶ村) 小池 利治氏(李平) 千國日出子氏(五区) 田原富美子氏(石原) 平成30年5月20日から	全員賛成
教育委員会教育長の任命について	山田 光美氏(池原)〔再任〕平成30年4月1日から	全員賛成

請願・陳情

付託委員会	件名	提出者	審議結果
経済委員会	耐震診断・耐震改修に関する陳情書	一般社団法人長野県建築士事務所協会 会長 小河 節郎 一般社団法人長野県建築士事務所協会 大北支部 会長 吉川 馨	採択 (全員賛成)
経済委員会	国土交通省告示第15号の履行に関する陳情書	一般社団法人長野県建築士事務所協会 会長 小河 節郎 一般社団法人長野県建築士事務所協会 大北支部 会長 吉川 馨	採択 (全員賛成)

請願・陳情

付託委員会	件名	提出者	審議結果
経済委員会	最低制限価格の設定に関する陳情書	一般社団法人長野県建築士事務所協会 会長 小河 節郎 一般社団法人長野県建築士事務所協会 大北支部 会長 吉川 馨	採 択 (全員賛成)
総務委員会	高齢になっても村内に住み続けられるための支援充実に関する要望書	竹田 保二 元村 久夫 杉山 寿二 相澤あや子 他706名	採 択*1) (全員賛成)
総務委員会	国に対して生活保護費引下げ中止を求める意見書提出の陳情	大北生活と健康を守る会 会長 太田 欽三	趣旨採択 (賛成多数)

\*1) 採択された陳情は、村長に送付された。

議員発議 (12月臨時議会)

件名	採択結果
<p align="center"><b>住宅宿泊事業法施行における長野県条例制定に関する意見書</b></p> <p>小谷村の厳しい状況下において、住宅宿泊事業法が施行され、条件・届出等が煩雑な旅館業法とは違い、届出のみの宿泊施設が供給されれば、既存の宿泊施設の更なる稼働率低下を招き、宿泊業を核とした本村の基幹産業が重大な打撃を受け、観光の経済基盤は崩壊しかねません。よって、住宅宿泊事業法と旅館業法を精査していただき、慎重な対応を要望します。</p> <p align="center">記</p> <p>1. 住宅宿泊事業法と旅館業法を精査していただき、住宅宿泊事業法の施行制限区域を設けるなど、長野県条例の制定を求めます。</p>	<p align="center">可 決 (全員賛成)</p>

議員発議 (3月議会)

議員提出による発議	議決結果
<p>予算特別委員会の設置について</p>	<p align="center">可 決 (全員賛成)</p>
<p align="center"><b>生活保護基準引下げを慎重に行うことを求める意見書</b></p> <p>生活保護制度は、生活困窮者の困窮の程度に応じて必要な保護を行い、健康で文化的な最低限度の生活を保障するとともに、自立を助長することを目的としているものです。</p> <p>社会保障審議会生活保護基準部会において、生活保護基準の見直しと検証が行われ、生活扶助費などの見直し案が示されました。生活保護基準は、住民税の非課税限度額や最低賃金にも影響を及ぼすものであるため、より慎重な審議が必要であります。</p> <p>また、急激な経済の変動により、生活保護受給者は大幅な増加を続けており、全国では生活保護受給者は200万人を超えています。さらに、年金制度や地域によっては最低賃金制度との不整合を生じたり、勤労すれば保護費を削られる一方で、勤労を忌避しても罰則はなく一定額の保護が受けられるなど、制度の矛盾も顕在化しています。</p> <p>生活保護基準の見直しを行うにあたっては、不正受給の防止、就労支援の強化、高齢世帯の基礎年金との逆転現象などの諸問題に取り組むとともに、生活保護受給世帯の影響や実態を把握し、慎重に行うことを要望します。</p>	<p align="center">可 決 (賛成多数)</p>

※意見書は関係機関に送付した。

# 国会要望

1月24日に、全議員と松本村長で関係国会議員の、務台俊介議員、下條みつ議員、吉田博美議員、高鳥修一議員、塚田一郎議員を訪問し、要望書を提出した。



## 【要望事項】

- 松本系魚川連絡道路の早期建設
- 国道148号の整備促進
- 姫川水系の整備と管理
- 砂防関係事業の促進
- 地方議員の厚生年金制度の加入実現

# 委員会活動報告

## 総務委員会

### 白馬山麓環境施設組合議会

#### 全員協議会

1月15日(白馬村)

新リサイクルセンター建設地、現敷地の所有権移転整理の裁判の実施を協議。

### 国保運営協議会

2月19日(小谷村)

本年度決算見込みと、来年度予算案を審議。県への移行過渡期のため、保健税を同率として、基金を取崩し対応とする。

第2期保健事業実施計画を承認。

### 54プロの学習・検討会

2月23日(小谷村)

特産推進室と54プロジェクトへの学習・検討会。今までの経過・実績と、今後の展望等を協議した。

### 白馬山麓環境施設組合議会

#### 全員協議会・定例会

2月26日(白馬村)

本年度補正予算、来年度予算案他、組合名称の変更や、白馬高校寮の増減等を審議。

予算、規約変更、現敷地の裁判提起等を可決した。

### 保健福祉対策推進委員会

2月20日(小谷村)

保健福祉対策の本年度現状と来年度の計画を審議。まめつてえおたり21(第2次)の中間評価、第3次食育推進計画、障害者計画、障害福祉計画、障害児福祉計画、老人福祉計画を審議し、承認した。

### 社会福祉協議会評議委員会

2月29日(小谷村)

本年度及び来年度予算案、収支計画、規約改正を承認。

(委員長 高橋 正宏)

## 経済委員会

### 住宅宿泊事業法の説明会

2月1日(小谷村)

地元宿泊事業者との意見交換会の結果を県へ提出。県からの回答内容の確認。



再生利用のワイン畑

### 大北地区農業振興推進協議会先進地視察

2月5日(東御市)

「風土Link(株)」(有)信州うえだファームより耕作放棄地再利用事業について説明をうけた。また、「ヴイラデストワイナリー」「アルカンヴィーニュ」のワインの製造の取り組みについて視察した。

### 大北農業パワーアップ

#### 研修会

2月26日(大町市)

耕作放棄地を利用したそば栽培と、6次産業化について、「(株)かまくらや」代表の田中浩二氏の講演と、「北アルプス山麓で見られる製薬と栽培可能なものについて」と題して、白馬村在住太田薬局薬剤師 山本美嶺里氏より講演を受けて、それぞれに、質疑応答等の研修をした。



(委員長 宮澤 正廣)

# 村政を問う

30年3月定例議会一般質問

【一般質問は、定例議会において質問通告書を提出し、1時間の制限で執行機関に疑問点や所信を問います。CATVで公開されていますが、議会傍聴に来ませんか。】

## 〈質問項目〉（質問順）

1、横澤かつ子	議員	①30年予算編成について ②加工貯蔵施設整備事業進捗状況について	(9ページ)
2、宮澤 正廣	議員	①村所有の空き地に公園を ②耕作放棄地の再利用について	(10ページ)
3、小池 利治	議員	①遊休荒廃農地対策のそば生産状況と展望 ②県・村の農業総生産額について	(11ページ)
4、曾根原恵子	議員	①30年度予算・安心の暮らし・底上げを ②国民健康保険は住民福祉の守り手に ③里見地区観光再生 事業者と地域の総意で ④農産物貯蔵加工施設で6次産業推進を	(12ページ)
5、太田 武彦	議員	①子育て世代の移住定住推進体制の構築について ②大糸線活用体制構築について	(13ページ)
6、藤原 賢司	議員	①村長任期最終年度編成に託す想い ②雇用なくして定住なし、所得なくして定住なし ③小谷らしさを活かしたオンリーワンへの取り組み	(14ページ)
7、高橋 正宏	議員	①54プロジェクトの推進について ②農業の振興について ③林業の振興について	(15ページ)
8、猪股 充拓	議員	①松本糸魚川高規格道路の進捗状況について ②小谷小生徒の村内スキーリフト無料化について	(16ページ)
9、北村 利幸	議員	①平成30年度予算・事業について	(17ページ)

【＊ 一般質問のページは、質問議員が各自で作成をしています。】

## 「検討する」の回答はどうなったか？

【質問に「検討する」とした回答は、1年間検討後に村長より再回答されます。】

### 〈質 問〉

[29年12月]

- 白馬校支援事業、受入増加で寮の体制は
- 白馬高校寮運営と人材は
- 白馬校公営塾の運営状況は
- 高校寮の土地・建物の取得金額は
- 雇用創出と産業育成、「おやき」製造は

### 〈再 回 答〉

[30年12月]

- ◆増築し56人男子寮、38人女子寮に対応。
- ◆ハウスマスター、舎監、パート各1名、食事は外部委託。
- ◆講師3名、生徒数50名。今後増員に対応。進学コースも。
- ◆31年取得方針。建物2,410万円、消費税192万8千円。
- ◆「山ウドの葉」「小谷野豚」原材料としたおやきを開発中。

# 里見地区再開発

## 事業について



横澤かつ子 議員

人経営では、設備の近代化もままならない小谷の観光の現状を打破し、株式会社による企業体制に移行。効率の運営を目指すのが真の目的である。

計画はいつごろから

### 問

(実行時期)

### 答

村長 地権者の個別の事業を勘案しつつ、集約し、買収契約を進めたいと考えている。地域の同意が得られず、土地の集約ができなかった場合は、本計画を中断、もしくは断念する。

**問** 地元住民(里見地区)からの要望及び同意等があったか何う。

### 答

村長 里見地区からは要望はない。本年2月15日に初の里見地区住民説明会を実施した。

### 問

事業の目的は。

### 答

村長 低迷が続く観光業と等級化が進む観光施設の再生にあたり株式会社を設立し、外資に虫食いされる前に、観光拠点となつて土地の確保を最大の目的とする。また個

びに、小谷村総合戦略の基本目標を主に実施。

### 問

重点施策を何う。

### 答

村長 前年からの継続事業も含め、主な事業は、

- 深原一時避難所新築工事
- 村政60周年記念事業
- 村内開発事業
- 白馬乗鞍交流センターちやんめろ改修工事
- 自然園楠川トイレ建築工事
- 村営住宅建設工事
- おたり54プロジェクト推進事業
- 地域高校対策事業
- ごみ処理広域化推進負担金

### 加工貯蔵施設整備事業の進捗状況について

### 問

施設設計事業者の入札には何社参加したのか何う。

### 答

村長 発注方法を②「指名型プロポーザル」として、29年11月、9社に指名通知し、30年1月に参加業者7社によるプ

レゼンテーションを実施。

同時に審査会で株式会社エーシーエー設計松本支社に決定。委託契約を締結。

◎決定事業者

長野県松本市征矢野2丁目8番10号

株式会社エーシーエー設計

松本支社

雇用創

### 問

出が大

きな目的であると思うが、再度何う。

### 答

村長 大北農業協同組合、道の駅おたり、小谷村の3者が出資する新たな法人組織であり、8人の常時雇用者数を確保。原材料出荷集中時には3名の臨時雇用者を確保。



改修工事に入る交流センター「ちやんめろ」

②「プロポーザル方式」とはコスト面の多少だけで判断する競争入札方式とは異なり、設計テーマに対する発想、解決方法等の提案を審査し、最も適切な契約者を選ぶ方式。

# 村所有の空き地に公園を



宮澤 正廣 議員

**問** 子育て世代から自由に安全安心して遊べる公園が作れないか考えてほしい。①屋外の公園が維持管理等大変であるならば屋内の施設はどうか。②土日祝日も気軽に遊びに行ける施設はどうか。

**答** 村長 昨年11月に、小谷版小さな拠点構築事業に「村での子育て、地域の支え合いに関するアンケート調査」を実施した。村内園児、児童生徒244人の内128人から回答があり、村の子育て環境について「小谷村にあったらいいなと感じたサービ

室内で遊ぶところ」「遊具のある公園」「急病や急遽の際の子どもの預け場所」「病児保育」「ママ・子どもが交流できる場所」など多くの意見があった。子育て世代の母親と子どもたちの交流の場として、土谷地区では「ひなたつこの会」が作物づくり、地区のゴミ拾い、地域住民との交流など自主的な活動を行っている。社会福祉協議会では福祉センターせせらぎを開放して子育て世代を中心としたお茶会を毎週火曜日の午前中に開催している。現在おたり54プロジェクトの複合拠点施設基本構想策定中のことから多世代が交流できる居場所や出番が生まれる空間の新設を考えている。親子が安心して利用できる機能を備えた施設設備の検討を進めている。基本構想に基づき、適切な時期

に必要な予算を確保し設備したいと考えている。



このような公園がほしい!!

## 耕作放棄地の再利用は

**問** 耕作放棄地（遊休農地）を増やさない対策は。

**答** 村長 現在、小谷村で平成29年度中に耕作されている農地は、米が90ヘクタール、そばが45ヘクタール、その他野菜などで15ヘクタール程度である。耕作割合では、南小谷が約80%以上を占めており、村の人口割合とほぼ同

じで、人口とともに耕作地が減少する傾向にあることがうかがえる。小谷村は観光地でもあり、農村風景を守るためにも耕作放棄地を増加させない対策は必要。

小谷村では農地を貸したい意向があっても、条件の良い農地が少ないため、借り手がいないという課題がある。集落でも集落機能の向上と併せ、地域と一体となった農地維持に取り組んでいただきたい。その活動に「地域づくり事業補助金」も用意しているところである。地域の検討を期待している。

**問** 農山村の暮らしや文化を楽しむ滞在型の情報発信は。

**答** 村長 現在、農村暮らしを主にした観光メニューは、爪かんじきづくり、マタギツアール、雪中カンラン掘り体験、また、グリーンシーズンは、わらび狩りやタケノコ狩りツアー、農村の暮らしにあった



荒れる農地

体験メニューを発信している。滞在型については、塩の道やトレッキングなど農業体験等のプラン作りが必要であり、受け入れ宿やガイド等の協力が得られれば可能であると考えている。

**問** 環境、景観、農村社会等の保全是。

**答** 村長 環境景観においては、小谷村内においてもさまざまな、観光地の景観、観光に必要な景観、農村集落の景観や環境など、その特徴を保全するために、景観条例を制定する予定である。地域ごとに集落維持の話し合いをお願いしたい。

# 遊休荒廃農地対策の

## そば生産状況と展望は



小池 利治 議員

**問** 遊休荒廃農地解消にそばを振興作物として推進してきた。

そばは極めて水に弱い作物のため、天候に左右されるが、遊休荒廃農地対策として位置付けるか、農業の重要な柱の一つとして位置付けるか伺う。

**答** 村長 そばは水に弱く、天候に左右される作物であることは指摘のとおり栽培が容易であること、作付けにより農地の保全、景観が維持されること、村内で販売、提供できる重要な地産地消作物として作付けがスタートしてか

ら15年以上経過し、多くの設備投資もしていることから、今後も農地保全と推奨作物両面での位置付けとしていく。

**問** 収穫したそばの適切な保管場所、倉庫に対する今後の方法、対策についてどのようなか。

**答** 村長 平成29年のそばの収穫量は村内で約15t、うち約7tは村内供給のため一時的にJA倉庫などに保管し、随時出荷する体制をとっているが、平成18年度に約3t程度保管できる冷蔵庫は整備したものの、現在では栽培面積が増加し冷蔵庫には入りきらない状況である。

そばは10月に収穫され、もっとも需要のある夏場まで保管が必要とされ、夏場の高温期への対応と、秋に

一括して大量の集荷があることから、対応できる冷蔵保管庫は必要と考えている。村内販売必要量目標20t最低でも15tを一箇所でも保管できる冷蔵保管庫が必要であり、今後関係者と協議を進めつつ、整備に向けて準備していきたくと考えているが、できれば農業機械、乾燥調整、製粉施設、冷蔵保管庫を同一敷地内にまとめて管理できればと思っている。



既存加工施設

### 県の農業総生産額と 村の総生産額は

**問** 村の農業総生産の推移、今後の展望について。

**答** 村長 経済成長により最も農業生産額が向上したのは昭和50年代であり、6億5千万円程度の生産額と記載されている。現在2016年作況調査の水稲作付面積は94ha、農業出額推計によると1億6千万円程度と推計されている。

米の価格は現在横ばいだが、質問のとおり平成30年からの減反政策の廃止により、今後価格の低下も危惧されている。

今後の展望については、安価な外国産の農産物の輸入など市場は厳しい状況が続くと予想されるし、過疎高齢化により農業者人口も減少し、村の生産額もますます減少していくことが予想され、急峻な傾斜で営ま

れている小谷村の農業生産物の付加価値を高めて、価値のある農産物の栽培を目指す必要がある。

土地に恵まれた農地立地のよい地域には到底かなわないが、逆に少品目、多品類かつ希少価値もつくような農産物による生産額の維持、向上を目指していくことが村の特徴をもっとも活かした事業と考えている。

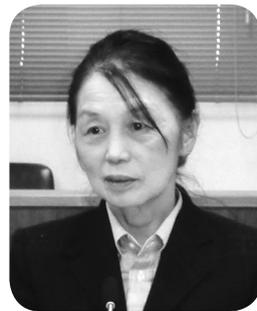


荒廃農地解消、そば畑



# 18年度予算

## 安心のくらし底上げを



曾根原恵子 議員

内容を保護者に周知を。

**答** 教育長 あらゆる機会を利用し周知を図る。

**問** 人手不足と労働不足が深刻だ。対策は。

**答** 村長 新加工貯蔵施設では常用8人を目標とする。複合拠点施設建設（小さな拠点構築事業）で職業紹介バンク、雇用、人手不足解消、継業促進を検討中だ。

**問** 今後予想される大きな負担増の影響から村民を守るため、くらしにシフトさせた財政枠が求められる。

子育て支援と雇用対策はどう具体化されたか。

**答** 村長 子育て応援では産後ケア、高校生の通学費補助、小学校パソコン整備等が新規事業となる。

**問** 奨学金制度・入学準備金など制度改革の

なるのは問題だ。検証されたか。

**答** 村長 税率算定の判断は慎重に行う。単に県標準に合わせることなく加入者負担に充分配慮し税設定が重要と考える。

### 里見地区再開発

#### 古民家再利用計画

**問** 里見地区説明会での住民意見をどう活かすか。今後の進め方は。

**答** 村長 行政説明の不足と、誇張された新聞報道により住民に計画内容が伝わらなかった。事業の必要性を関係者や地区に継続して説明を行う。

**問** 住民の、特に若い世代の意向が反映されるしくみがあるか・地域振興にどう関わるか・営利事業と行政の公共性が両立するか。検討課題がある。安易に承認はできない。

**答** 村長 土地の集約が今年度の事業だ。地権者の積極的協力と理解が

あれば民家再利用の仕組みができる。

**問** 従来ある「民営化手法」との違いは。

**答** 村長 運営は民間の経営手法と技術力を活用する。村が出資した会社が事業を行う。公共事業・公共施設ではなく、取得した物件も村有資産ではない。

### 農産物加工施設

#### 事業費計画の変更

**問** 29年度交付金確保ができず、村単独事業で設計を行うことになった。30年以降は、当初の計画どおり交付金確保ができるのか。

**答** 村長 設計業務委託が遅れたため国・県と交付金繰越を協議した結果、繰越はできないと指導があり、ふるさと応援寄付金で財源補正した。

今後は「農山村活性化交付金」から「過疎対策事業債」へ財源を組み替えて進

める。総事業費7億5百万円。財源確保に向け国・県と協議する。

**問** 農家は加工施設の稼働に期待している。

**答** 村長 オープンが2020年になることを広報で伝えた。原材料確保は大北農協と連携して進めている。栽培・出荷の協力を村民にお願いする。

**問** 原材料を安心して作り続けられるか、計画変更の説明はされたか。



目前に広がる北アルプス連山、圧倒的な非日常感

# 子育て世代の移住・定住 推進体制の構築について



太田 武彦 議員

## 問

①子育て世代に対する支援策、教育を大  
きな柱として教育環境の充  
実に力を入れていくところ  
であるが、その効果をどの  
ように実感しているか。

②子育て世代の移住を促  
すためにもっとはつきりと  
した目的を掲げることが必  
要と考える。そこで、イ、  
現在54プロ検討中の住宅構  
想の中で子育て者用住宅を  
建設し移住を促してはどうか。ロ、親子で移住する山  
村留学制度を構築し移住  
を促してはどうか。ハ、2  
世帯住宅建築、改修に対す  
る手厚い補助金制度を構築

## 答

し、定住を促してはどうか。

### 村長

①平成27年度

は、中学生（うち保

小、中）以下の転入者は11  
名（うち保、小、中3名）、

28年度は、中学生以下の転  
入者数は13名（うち保、小、

中5名）29年度は、中学生  
以下11名（うち保、小、中

3名）であり、小中学校各  
学年では、良い意味での人

間関係の構築や、刺激が得  
られ、学校全体の活性化が

図られていると聞いている。

②イ、54プロで検討を進  
めている、複合拠点施設の

基本構想の中で、移住・定  
住を希望する世帯向けの住

宅整備と、多世代が交流で  
きる居場所や出番が生まれ

る空間を新設する必要があ  
る。ロ、児童生徒数が増え

ることは大歓迎だ。移住・  
定住施策と併せて、取り組

んでいきたい。ハ、以前、  
要望や相談が増えれば検討  
したいと答弁したところで  
あるが、以後、相談も要望  
もないし、2世帯住宅の新  
築もない状況だ。そのよう  
な要望があれば、現時点で  
の補助金対応となるが、村  
にお寄せいただくよう勧め  
てほしい。ただし、2世帯  
同居の方もいれば、敷地内  
に世帯ごと2軒に分かれて  
住む方もいるので、公平を  
期すことも重要なことであ  
り、慎重に対処したいと考  
えている。

## 問

結婚すると近隣市村  
に転出される例もあ  
り、要望があるとか、ない  
とかでなく定住を促すうえ  
でも門戸を開くべきと考え  
る。定住促進事業補助金制  
度に1項を増やせば事足り  
るのではないかと考える。

## 大系線の利活体制の 構築について

新幹線も金沢から西  
に延伸すること、富

山空港国際便発着等考える  
と、北アルプス地方への1  
番の入口に位置するわが村  
での大系線の重要性は高ま  
っている。

そこで、今まで行ってい  
た施策、今後利活用を促進  
するか、そのことについて、  
村民を含めた関係業者、機  
関との連携施策は考えてい  
るか、また、大系線を活用  
した村の振興策をどのよう  
に考えているか。

## 答

### 村長

以前、今後観

光客の利用に期  
待すると答えたが、外  
国人観光客が多少目立  
つようになったと聞いて  
いるが、運行本数が少  
ないこと、目的地へ時間  
を要することから思う  
ように利用客の増加に  
結びついていないのが現  
状である。ちなみに、

JR西日本、関西のエー  
ジェント、北アルプス3  
市村では、関西からの  
冬の誘客を促進する事  
業を行っているが、乗り

継ぎ時間等時間短縮を図る  
ため、糸魚川駅から各スキ  
ー場へバス輸送を行ってい  
る。したがって、観光客の  
利用増は、期待はしている  
が難しい面がある。大系線  
の車両や景色が観光資源に  
なるかどうかカギとなる。  
そのためには、施設を所有  
するJR西日本との連携が  
欠かせない。また、周辺自  
治体と連携した観光的な列  
車の定期的運行等の道を今  
後も探っていきたい。



景色が観光資源

# 村長任期最終年度・

## 予算編成に託す想いは



藤原 賢司 議員

**問** 村長として任期最終年度の予算編成にあたっての所信は。

**答** 村長 行政は継続が大事であり、その時々に合わせて施策や予算編成も必要。そして必要なことを早く行うことに心がけ予算編成を行った。

**問** 平成28年度の事業決算成果を鑑みて、どのように新年度予算に反映したか。

**答** 村長 事業の達成度、数値目標、進捗状況等を検証し、計画↓実施↓評価↓改善を繰り返し必要な事業を予算に反映した。

**問** ふるさと応援寄付金予算といっても過言ではない事業の内、最も想いを入れた事柄、その想いを予算にどのように位置づけ反映したか。

**答** 村長 村や集落の課題解決、豊かな暮らしの財源として、ふるさと応援寄付基金を使い実施したいと考え、移住希望者や独居高齢者の「住宅施設」、検討中の「小さな拠点の構築」、観光の再開発・登山トイレなど観光施設整備の実施が可能と判断できることは、財源としてこの基金を見込めるからだと思う。

**問** 「高齢になっても村内に住み続けられるための支援充実に関する要望書」が、村内706名の署名を集め提出された。要望に応える施策は。

**答** 村長 要望のなかで「高齢者の住まい」「さまざまな生活支援サービスの充実」は、緊急度の高い課題であり、課題解決に向けた取り組みを優先的に実施していきたい。

**問** 里見地区の観光再生計画、10年スパンは長すぎないか、計画を失敗したときの対応策は。

**答** 村長 観光再生計画は、里見地区に限ったものではなく、小谷全体の観光として「いつかは小谷に行きたい」となるまでには時間がかかる、という認識の上に立っている。

**問** 平成30年度末で土地の集約ができず断念した場合、村の損失は、会社設立維持費用であるが、その場合の代替案は無い。

**答** 村長 雇用なくして定住なし所得なくして定住なし 村長の考える雇用の場、所得を増やす具体的な政策はなにか。

**問** 村長 目標の観光集客百万人を達成すれば、雇用、所得も増えると考え、観光連盟へのテコ入れ、観光の広域化、通年観光化、そして新年度は観光再開発を考えている。

**問** 高齢者の生きがい対策、少額でも所得確保ができる、高齢者の働く場の確保が必要と思うが。

**答** 村長 住民同士の支援合いの延長で、有償ボランティアの仕組みを創出し、高齢者の出番をつくり、生きがいや収入が生まれる場を確保したい。

**問** 使っていない農機具、農地を提供し、就農希望者を助成金制度も含め募ってはどうか。

**問** 必要なきに即戦力となる、人材派遣会社の必要性について。

**答** 村長 各事業者で人材派遣会社に依頼、企業間の派遣、人材の紹介など会社ごとに時間単価を設定し、確保しているとのことだが、情報提供など依頼があれば対応したい。

**問** 小谷らしさを活かしたオンラインワンへの取り組み

**答** 村長 平成30年度はスムーズな事業展開ができるように「森林セラピー協会」(仮称)を設立することとしている。

# 54プロジェクトの推進は



高橋 正宏 議員

サービス利用者と担い手をつなぐ仕組みづくりに、社協関係団体と連携して取り組みたい。

**問** 「稼ぐ」方法をどのよう  
に考えるか。また、組織構成は民間志向の方が望ましいと思うが。

**答** 関係者の基本理念の共有が大切だが。

**問** 村長 基本理念は、「だれもが最後まで自分らしく住み慣れた場所で暮らし続けられる村」で、そのためには「いるところ＝居場所」と「やること＝出番」が必要。

5年10年先を見据え、関係者・関係組織が、基本理念を共有・連携して各取り組みを推進する。

**問** アンケートよりも、対面での意向調査が大事では。

**答** 村長 社協から集落・地域での聞き取りニーズ調査等に、取り組みたいと聞いている。

## 一般質問

「稼ぐ」方法をどのよう  
に考えるか。また、組織構成は民間志向の方が望ましいと思うが。

**答** 村長 組織は、行政と民間の中間的な立ち位置で、収入源は、多様な働き方の職業紹介業務・体験や場所を共有し収益を得るシェアリング業務・複合拠点施設の運営・維持管理などの受託収入など。いずれも、計画を策定中で、引き続き検討を進める。

組織は、対外的な信用を得やすい「一般社団法人」が望ましいと考えている。

新年度に、法人化に向け、詳細な検討・調整を進める。立ち上げ時には初期投資・運営資金とも、100%村

の予算が必要と考えている。



会議を重ねて

### 農業の振興について

**問** 教育や福祉、観光等を含めた農業の今後はどう考えるか。

**答** 村長 子ども達と農家との関わりは、高齢農家の生きがいにも通じ、教育と福祉など、複合的な農業はますます重要になる。

また、オーナー制度は、貴重なイベントとして定着し、雪中キャベツ収穫体験などは、観光事業の一つであると理解している。

今後も、農業と教育、福祉、観光などを繋ぐ施策を推進したい。

**問** 棚田サミットの効果、活用はどうか。

**答** 村長 村の農業実態についての発表・意見交換する場を計画している。

特に、山腹水路等の実態や管理体制などを発表し、今後の支援体制等や、柵池を主会場とし、さまざまな観光ツアーも企画し小谷村をアピールしたい。

多くの農業関係者、観光関係者や村民全体にご協力をいただき、中山間地農業を考え、話し合い、今後へつながるサミットとなるよう計画する。

### 林業の振興について

**問** 大量に伐期を迎えた杉を直交集成材等で利用検討を始める考えは。

**答** 村長 村有施設などの建設に、直交集成材等を利用することは可

能。現段階では高額となり、小谷産の木材を利用する場合は、伐採・搬出に多額の費用を要するため、効果を検証し、利用したい。

能。現段階では高額となり、小谷産の木材を利用する場合は、伐採・搬出に多額の費用を要するため、効果を検証し、利用したい。



手入れのされない杉林

**問** メープルシロップの展望は。

**答** 村長 今後大きな注目を浴びる可能性はあるが、現時点では、さまざまな課題が考えられ、農業同様、体験や教育など複合的に考えれば大きな資源になるかと思う。



# 松本糸魚川高規格道路の 進捗状況と今後の展望



猪股 充拓 議員

## 問

今シーズン来場していただいたお客様からよく言われるのが道路事情の悪さだ。

南は安曇野インターから天候の悪い時などは2時間以上、北は糸魚川インターから狭いトンネルを大型トラックとすれ違いながら1時間以上かけて来ていただいている状況。

年末年始このハクババレーエリアへの来場者数は25万人以上となかなか数字だ。

この道路事情が改善されれば更なる集客も見込まれると思う。高速道路地図を

見てもこのエリアだけが真っ白になっており、小谷村だけの問題ではなく広域・県で考えていかななくてはと思うが、村民の長年の夢でもあり正に命をつなぐ道である。現在の進捗状況と小谷村が思い描く今後の展望を伺う。

## 答

村長 最初に長野県側であるが（仮称）

安曇野北IC～大町市街地「南」区間のうち、新設区間については、平成28年1月に計画案を公表以降、住民への丁寧な説明に努め、ルート帯の決定に理解を得るべく事業を進めている。

新潟県側であるが、平成20年度に2つのルート帯を提示し、その後、必要な調査等を継続的に実施し、昨年11月30日に一部ルート帯を決定した。「県境～平岩」

区間については、現道利用とし「平岩～小滝」区間についてはルート帯の検討を継続することとなった。「小滝～山本橋」区間については主に現道を活用するルート帯とし「山本橋～糸魚川IC」区間については市街地を回避する姫川左岸ルート帯となった。

両県では並行して短期間で事業化でき早期に整備効果が発揮できる「国道・県道バイパス事業」を用い、将来的に地域高規格道路として活用可能な道路整備を進めている。現在実施している雨中・月岡バイパスについては長野県の新5カ年計画の中で計画対象期間中に供用開始する旨を盛り込んでいただいた。

いずれにしても本道路が災害に強く安全で高規格な路線として一日も早く整備されるため関係機関・団体・市町村との連携を一層密にし、早期実現に向けた運動を推進していきたい。

## 小谷小生徒の村内スキー 場リフト無料化について

## 問

小谷村は梅池・白馬乗鞍温泉・白馬コルチナと日本屈指のスキー場が3つもありスキーをする環境は整っているが、地元Jrスキー部の部員の減少、子どもたちのスキー離れが進んでいる。

せめて小谷在住小学生は村内スキー場リフト無料にし、いつでもスキーを楽しめる環境作りも必要ではないか。少しでも親にかかる負担を減らし、村の子どもは村が育て村に誇りを感じてもらおう、なにより小谷出身の子どもは全員スキーが上手という状況になって欲しい。ご検討をお願いする。

## 答

村長 議員からの提案については来シーズンから実施したく準備を進めたいと考える。

先に索道事業者の皆さんと意見交換をさせていた

だいた。保育園児から中学生まで約250名程度を例えばシーズン券の扱いとして3スキー場1枚のICカードでお願いできないかななどの提案をし、意見を伺った。索道業者の皆さんからは大変前向きな意見をいただきありがたい。

小谷の子ども達全員がスキーに親しみ、村に誇りを持ち、引いては村のスキー産業を支えていただきたい。



スキーって楽しいー!!

# 平成30年度予算・事業について



北村 利幸 議員

## 観光再生計画について

**問** 資産保有会社・事業運営会社を設立する投資資金はどのような計画か。

**答** 村長 資本金2社で2千万円、会社設立経費1千万円、初期投資資金3億円合計3億3千万円。事業として成り立つにはできるだけ多くの土地が必要となる。

**問** 経営破綻した場合、村として賠償は生じないことを確約できるか。

**答** 村長 会社が賠償責任を負うこと、村に賠償責任は一切生じない。

**問** 資産買い上げの選定と評価額決定方法。

行政の進め方だが。

**答** 村長 機会あるごとに説明するが改めて説明会開催は計画していない。設立した会社が必要に応じて説明会を開催する。

**問** 景観計画策定・条例制定は。

**答** 村長 できる限り早期に検討し制定したい。

**問** 既存施設への影響はないか。

**答** 村長 できるだけ影響しないようにする。

**問** 村営住宅建設について

**問** 梶池村有地に計画されている村営住宅の建設場所は人口が減少し高齢化している地域に建設してメリットが大きい。通勤、通学など入居者に便利な位置を検討するべきでは。

**答** 村長 未利用村有地の有効活用、村内住宅の不足、定住促進対策の手段とする。

**問** 入居者の地元との交流や自治会への協力は

は大きな力となる。入居者は自治会に加入し、作業、行事に参加するべきでは。

**答** 村長 森林組合が指定管理者であったが、管理者を辞退した後、振興公社でキャンプ場と兼

池地域産物販売施設の2施設を管理していたが、広範囲であり手が回らなかった。このたび、鎌池施設の管理希望者があり、管理面とお客へのサービス向上が見込めることから、管理者を新たに指定することとした。契約解除となるが、違約金は発生しない。

**問** 小谷名産館の指定管理者の選定評価は。

**答** 村長 指定管理者は契約期間満了により村民に告知し、募集した。4団体から応募があり評価委員会審査し決定した。

**問** 有害鳥獣駆除について

**問** カモシカ有害駆除が許可されなかった理由は。

**答** 観光振興課長 手続き方法は変更ないが、電柵等防獣施設が整備してあって被害を受けた場合許可される。被害の申告がなかったため手続きはしなかった。

**答** 村長 資産保有会社が買収交渉を行い、周辺売買価格に合わせ決定していく。必要に応じて買上げるが、不動産売買の実例・金融機関と相談して決定していく。

**問** 地元索道事業者との協力交渉は。

**答** 村長 今後設立した会社が必要に応じて交渉する。



観光再開発予定地

し理解を得ることが丁寧な

**問** 巨額投資となる。村民にも説明会を開催

し理解を得ることが丁寧な



梶池村営住宅増設予定地

**答** 村長 村単で建設する住宅では入居契約書に自治会加入・協力等の条件を明記したい。

**問** 指定管理者の指定について

**問** 雨飾高原キャンプ場外1施設の指定管理者の指定期間の変更の理由は。

**答** 村長 森林組合が指定管理者であったが、管理者を辞退した後、振興公社でキャンプ場と兼

池地域産物販売施設の2施設を管理していたが、広範囲であり手が回らなかった。このたび、鎌池施設の管理希望者があり、管理面とお客へのサービス向上が見込めることから、管理者を新たに指定することとした。契約解除となるが、違約金は発生しない。

**問** 小谷名産館の指定管理者の選定評価は。

**答** 村長 指定管理者は契約期間満了により村民に告知し、募集した。4団体から応募があり評価委員会審査し決定した。

# わたしのひとこと

相澤 恭介  
(オタリンク)

「戻っても働くところがな  
いからさ」

同級生に「何故地元に戻  
ってこないのか」と訊ねる  
とそういった内容の返答が  
ほとんどだ。若者のイター  
ンが急増している中、逆に  
地元では、「誰か若い子はい



オーストラリア人の友人と一緒に夕食

県がインバウン  
ドを進めている  
中国からの観光  
客も右肩上がり  
だ。お客様との  
会話は日本語で  
はおそらくでき  
ない。というこ  
とは、英語をこ  
ちらが話さねば  
ならないが、話  
せる人はごく一  
部しかない。  
若者が活躍でき  
るチャンスだと

ないか」と働き手を探して  
いる人が大勢いる。外か中  
か。いる場所によって見え  
方はかなり違うのだ。  
人口減少と反比例し、  
増えていることもある。外  
国人の増加だ。来シーズン  
より北米の大手スノーリゾ  
ートと白馬バレーが提携し  
たため、来季からは豪州以  
外からの観光客も見込め、

私は思う。

英語はほんの一例だと思  
う。別のことでも、地区単  
位でもいいし、村単位、地  
域単位でも良い。自分がイ  
キエキできる場所がなけれ  
ば作れば良い。「俺はいる  
ぞ!」とPRできたら村全  
体が盛り上がり、「小谷村は  
若い子多いな!」と思われ  
るかもしれない。

外か中か。見る場所によ  
って見え方が違うなら、中  
から外にアピールするのも  
1つの方法かもしれない。

## 「小谷村への恩返し」

地域おこし協力隊 井上 聡也

小谷に来る前は焼き鳥チ

エーンのお食  
店長でし  
た。田舎  
に住みた  
いという  
思い、ス  
キー場で  
食べたご  
はんが格別においしかった  
という思い出、そして焼き



あなたの家まで焼きにいけます!  
あなたの家まで焼きにいけます!  
あなたの家まで焼きにいけます!

鳥屋で独立したいという思  
い。これらが組み合わさつ  
て、スキー場の近くで焼き  
鳥屋をやりたいと思うよう  
になり、いろいろ偶然が重  
なって小谷村に来ることに  
なったのです。  
小谷に移り住んではや9  
ヶ月。生活する中でいろい  
ろな方と接していくうち  
に、小谷村と小谷の人たち  
が大好きになりました。ス  
キー場もいいけど、まずは  
小谷の皆さんに美味しい焼  
き鳥を食べてもらいたい  
と思うようになりました。  
だから今すぐにできるこ  
ととして、出張焼き鳥サー  
ビスをやります。ご家族で  
のお食  
事や、  
ちよっ  
とした  
集まり  
などに  
気軽に  
呼んで  
ください。いつもと違った  
夜を過ごしましょう。

## 編集後記

今回の議会だよりが我々  
編集委員会メンバー最後の  
議会報となります。私自身  
一村民だった頃まったく気  
にも留めなかった議会だよ  
りを議員任期中の4年間で  
編集委員として携わらせて  
いただきました。定例会・  
臨時会・委員会などの編集  
をするたびに議案・審議内  
容等の復習ができ、それを  
また村民のみなさんに少  
しでもわかり易くお伝えでき  
ればとの思いでした。

今までご協力いただいた  
りご意見いただいた村民の  
みなさんには、本当に感謝  
しております。これからも、  
少しでも分かり易く、少  
しでも議会を身近に感じて  
いただき、少しでも多くの村  
民のみなさんに読んでいた  
だけけるような議会だより  
であって欲しいと願っていま  
す。4年間ありがとうございました。  
ました。

(編集委員長 猪股充広)